高等学校生の文系・理系の選択状況について

○ 高校の３校に２校（66%）では、文系・理系のコース分けを実施している。
○ 高校３年（文系・理系）のうち、理系コースで履修する生徒の割合は32%、文系コースで履修する生徒の割合は68%である。

出典：国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」（2013年3月）
### 高等学校における理数系科目の履修状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>数学</th>
<th>数学Ⅱ</th>
<th>数学Ⅲ</th>
<th>数学A</th>
<th>数学B</th>
<th>数学活用</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通科等</td>
<td>92.5%</td>
<td>29.5%</td>
<td>95.2%</td>
<td>74.1%</td>
<td>2.1%</td>
</tr>
<tr>
<td>職業教育を主とする専門学科</td>
<td>65.6%</td>
<td>3.2%</td>
<td>52.4%</td>
<td>10.4%</td>
<td>3.5%</td>
</tr>
<tr>
<td>総合学科</td>
<td>60.9%</td>
<td>11.7%</td>
<td>84.6%</td>
<td>29.9%</td>
<td>6.1%</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>83.4%</td>
<td>21.6%</td>
<td>83.8%</td>
<td>54.8%</td>
<td>2.7%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※数学Ⅰについては必修科目であり全ての生徒が履修している

<table>
<thead>
<tr>
<th>理科</th>
<th>科学と人間生活</th>
<th>物理基礎</th>
<th>物理</th>
<th>化学基礎</th>
<th>化学</th>
<th>生物基礎</th>
<th>生物</th>
<th>地学基礎</th>
<th>地学</th>
<th>理科課題研究</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通科等</td>
<td>11.5%</td>
<td>65.6%</td>
<td>22.8%</td>
<td>93.4%</td>
<td>38.3%</td>
<td>94.3%</td>
<td>28.2%</td>
<td>34.6%</td>
<td>1.2%</td>
<td>0.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>職業教育を主とする専門学科</td>
<td>82.2%</td>
<td>41.3%</td>
<td>1.7%</td>
<td>44.7%</td>
<td>2.1%</td>
<td>57.7%</td>
<td>2.5%</td>
<td>7.4%</td>
<td>0.0%</td>
<td>0.0%</td>
</tr>
<tr>
<td>総合学科</td>
<td>64.1%</td>
<td>28.2%</td>
<td>5.9%</td>
<td>66.7%</td>
<td>15.1%</td>
<td>80.0%</td>
<td>16.6%</td>
<td>22.5%</td>
<td>0.5%</td>
<td>0.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>33.1%</td>
<td>56.7%</td>
<td>16.2%</td>
<td>79.2%</td>
<td>27.5%</td>
<td>84.1%</td>
<td>20.9%</td>
<td>26.9%</td>
<td>0.8%</td>
<td>0.5%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>情報</th>
<th>社会と情報</th>
<th>情報の科学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通科等</td>
<td>73.6%</td>
<td>26.1%</td>
</tr>
<tr>
<td>職業教育を主とする専門学科</td>
<td>59.7%</td>
<td>40.5%</td>
</tr>
<tr>
<td>総合学科</td>
<td>91.8%</td>
<td>9.3%</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>71.5%</td>
<td>28.4%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※平成27年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査（平成25年度入学者抽出調査）
【1．定時制課程の学校数・生徒数【推移】】
平成30年度の学校数：639校
平成30年度の生徒数：85,283人

【学校数】

【生徒数】

【2．生徒の就業状況の変化】

【3．生徒の実態等】

<table>
<thead>
<tr>
<th>定時制</th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>小・中学校及び前籍校における不登校経験ある生徒</td>
<td>39.1％</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>外国とつながりがある（外国籍・日本語を母語としない）生徒</td>
<td>6.6％</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ひとり親家庭の生徒</td>
<td>36.9％</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>非行経験（刑法犯罪等）を有する生徒</td>
<td>7.7％</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特別な支援を必要とする生徒</td>
<td>20.1％</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>心療内科等に通院歴のある生徒</td>
<td>9.2％</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書（平成29年度文部科学省委託事業））
通信制高等学校について

【1. 通信制課程の学校数・生徒数 [推移]】
平成30年度の学校数：252校
平成30年度の生徒数：186,502人

【学校数】

【生徒数】

【2. 生徒の就業状況の変化】

【3. 生徒の実態等】

（文部科学省「学校基本調査」）

（「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書（平成29年度文部科学省託事業））
「幼児教育無償化の制度の具体化に向けた方針」（12月28日関係閣僚合意）のポイント

趣旨 → 家庭の経済的負担の軽減を図る少子化対策、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性

1. 幼稚園、保育所、認定こども園等
   ● 3～5歳：幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育、企業主導型保育（標準的な利用料）の利用料を無償化
     ※ 新制度の対象とならない幼稚園については、月額上限2.57万円（注：国立大学附属幼稚園0.87万円、国立特別支援学校幼稚部0.04万円）まで無償化
     ※ 保護者が直接負担している費用（通園送迎費、食材料費、行事費など）は、無償化の対象外。食材料費については、保護者が負担する考え方を維持
     3～5歳は施設による徴収を基本。低所得者世帯等の副食費の免除を継続し、免除対象者を拡充（年収360万円未満相当世帯）
   ● 0～2歳：上記の施設を利用する住民税非課税世帯を対象として無償化

2. 幼稚園の預かり保育
   ● 保育の必要性の認定を受けた場合、幼稚園に加え、利用実態に応じて、月額1.13万円までの範囲で無償化

3. 認可外保育施設等
   ● 3～5歳：保育の必要性の認定を受けた場合、認可保育所における保育料の全国平均額（月額3.7万円）までの利用料を無償化
   ● 0～2歳：保育の必要性があると認定された住民税非課税世帯の子供たちを対象として、月額4.2万円までの利用料を無償化
   ● 認可外保育施設における質の確保・向上を図るため、指導監督の充実に向けた取組や認可施設への移行支援など様々な取組を実施

4. 負担割合
   ● 国1/2、都道府県1/4、市町村1/4。ただし、公立施設（幼稚園、保育所及び認定こども園）は市町村等10/10
     ※ 初年度（2019年度）に要する経費を全額国費で負担。また、事務費やシステム改修費についても一定の配慮措置。

5. その他
   ● 就学前の障害児の発達支援を利用する3～5歳の子供たちについても、利用料を無償化。幼稚園や保育所等を併用する場合も含む
   ● 実施時期：2019年10月1日
知識・技能
思考力・判断力・表現力等
学びに向かう力・人間性等

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

知識及び技能の基礎
（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか）

思考力、判断力、表現力等の基礎
（遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）

遊びを通じての総合的な指導
（心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）
幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

幼児園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。
新しい時代に必要となる資質・能力の育成、学習評価の充実

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない※

※高校教育については、学術的な事実知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題となっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高校接続改革等を進める。

どのように学ぶか

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

生生で働く知識・技能の習得
未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
生きで働く知識・技能の習得

学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養
＜社会に開かれた教育課程＞

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向かい合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域的人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）
の視点からの授業改善について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】の視点
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【対話的な学び】の視点
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【深い学び】の視点
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向け「深い学び」が実現できているか。
## 小学校の標準授業時数

### [ 改訂後 ]

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>1学年</th>
<th>2学年</th>
<th>3学年</th>
<th>4学年</th>
<th>5学年</th>
<th>6学年</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>306</td>
<td>315</td>
<td>245</td>
<td>245</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>1461</td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
<td>90</td>
<td>100</td>
<td>105</td>
<td>365</td>
</tr>
<tr>
<td>算数</td>
<td>136</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>1011</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>-</td>
<td>90</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>405</td>
</tr>
<tr>
<td>生活</td>
<td>102</td>
<td>105</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>207</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>68</td>
<td>70</td>
<td>60</td>
<td>60</td>
<td>50</td>
<td>50</td>
<td>358</td>
</tr>
<tr>
<td>図画工作</td>
<td>68</td>
<td>70</td>
<td>60</td>
<td>60</td>
<td>50</td>
<td>50</td>
<td>358</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>60</td>
<td>55</td>
<td>115</td>
</tr>
<tr>
<td>体育</td>
<td>102</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>90</td>
<td>90</td>
<td>597</td>
</tr>
<tr>
<td>特別の教科である道徳</td>
<td>34</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>209</td>
</tr>
<tr>
<td>特別活動</td>
<td>34</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>209</td>
</tr>
<tr>
<td>総合的な学習の時間</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>280</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語活動</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>140</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>850</td>
<td>910</td>
<td>980</td>
<td>1015</td>
<td>1015</td>
<td>1015</td>
<td>5785</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### [ 現行 ]

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>1学年</th>
<th>2学年</th>
<th>3学年</th>
<th>4学年</th>
<th>5学年</th>
<th>6学年</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>306</td>
<td>315</td>
<td>245</td>
<td>245</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>1461</td>
</tr>
<tr>
<td>社会</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
<td>90</td>
<td>100</td>
<td>105</td>
<td>365</td>
</tr>
<tr>
<td>算数</td>
<td>136</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>175</td>
<td>1011</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>-</td>
<td>90</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>405</td>
</tr>
<tr>
<td>生活</td>
<td>102</td>
<td>105</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>207</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽</td>
<td>68</td>
<td>70</td>
<td>60</td>
<td>60</td>
<td>50</td>
<td>50</td>
<td>358</td>
</tr>
<tr>
<td>図画工作</td>
<td>68</td>
<td>70</td>
<td>60</td>
<td>60</td>
<td>50</td>
<td>50</td>
<td>358</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>60</td>
<td>55</td>
<td>115</td>
</tr>
<tr>
<td>体育</td>
<td>102</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>105</td>
<td>90</td>
<td>90</td>
<td>597</td>
</tr>
<tr>
<td>道徳</td>
<td>34</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>209</td>
</tr>
<tr>
<td>特別活動</td>
<td>34</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>209</td>
</tr>
<tr>
<td>総合的な学習の時間</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>280</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語活動</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
<td>70</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>70</td>
<td>70</td>
<td>140</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>850</td>
<td>910</td>
<td>945</td>
<td>980</td>
<td>980</td>
<td>980</td>
<td>5645</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ この表の授業時数の1単位時間は、45分とする。
※ 各教科の授業について、15分程度の短い時間を活用して学習活動を行う場合については、総授業時間数や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的な配慮に基づいた判断が必要である。
高等学校の教科・科目構成について
（各学科に共通する各教科及び総合的な探究の時間）

<table>
<thead>
<tr>
<th>国語科</th>
<th>地理歴史科</th>
<th>公民科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>論理国語</td>
<td>地理探究</td>
<td>倫理</td>
</tr>
<tr>
<td>文学国語</td>
<td>日本史探究</td>
<td>政治・経済</td>
</tr>
<tr>
<td>国語表現</td>
<td>世界史探究</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>古典探究</td>
<td>地理総合</td>
<td>公共</td>
</tr>
<tr>
<td>現代の国語</td>
<td>歴史総合</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>言語文化</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>数学科</th>
<th>理科</th>
<th>保健体育科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>数学Ⅲ</td>
<td>物理</td>
<td>体育</td>
</tr>
<tr>
<td>数学Ⅱ</td>
<td>化学</td>
<td>保健</td>
</tr>
<tr>
<td>数学Ⅰ</td>
<td>生物</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>数学A</td>
<td>地学</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>数学B</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>芸術科</th>
<th>外国語科</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>音楽Ⅱ・Ⅲ</td>
<td>英語コミュニケーションⅠ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>美術Ⅱ・Ⅲ</td>
<td>（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合型）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>工芸Ⅱ・Ⅲ</td>
<td>英語コミュニケーションⅢ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>書道Ⅱ・Ⅲ</td>
<td>（スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>音楽Ⅰ</td>
<td>英語コミュニケーションⅡ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>美術Ⅰ</td>
<td>（「聞くこと」「読むこと」「話すること」「書くこと」の総合型）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>工芸Ⅰ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>書道Ⅰ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>家庭科</th>
<th>情報科</th>
<th>理数科</th>
<th>総合的な探究の時間</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>家庭基礎</td>
<td>情報Ⅱ</td>
<td>理数探究</td>
<td>総合的な探究の時間</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭総合</td>
<td>情報Ⅰ</td>
<td>理数探究基礎</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

※グレーの枠囲みは既存の科目
※英語力調査の結果やレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。
※実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。
<table>
<thead>
<tr>
<th>教科</th>
<th>科目</th>
<th>標準単位数</th>
<th>必履修科目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>現代の国語</td>
<td>2</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>言語文化</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>論理国語</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>文学国語</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>国語表現</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>古典探究</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>地理歴史</td>
<td>地理総合</td>
<td>2</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地理探究</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>歴史総合</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>日本史探究</td>
<td>3</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>世界史探究</td>
<td>3</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>公民</td>
<td>公共倫理</td>
<td>2</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>政治・経済</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>数学I</td>
<td>3</td>
<td>○2選ままで可</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学II</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学III</td>
<td>5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学A</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学B</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学C</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>科学と人間生活</td>
<td>2</td>
<td>3科目</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>物理基礎</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>化学基礎</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>生物基礎</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地学基礎</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地学</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>教科</th>
<th>科目</th>
<th>標準単位数</th>
<th>必履修科目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語</td>
<td>国語総合</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>国語表現</td>
<td>3</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>現代文A</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>現代文B</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>古典A</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>古典B</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>地理歴史</td>
<td>世界史A</td>
<td>2</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>世界史B</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>日本史A</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>日本史B</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地理A</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地理B</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>公民</td>
<td>現代社会</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>倫理</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>政治・経済</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>数学</td>
<td>数学I</td>
<td>3</td>
<td>○2選ままで可</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学II</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学III</td>
<td>5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学A</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学B</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>数学活用</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>科学と人間生活</td>
<td>2</td>
<td>3科目</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>物理</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>化学基礎</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>化学</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>生物基礎</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>生物</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地学基礎</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>地学</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>理科課題研究</td>
<td>1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>保健 体育</td>
<td>体育 保健</td>
<td>7〜8</td>
<td>○</td>
</tr>
<tr>
<td>----------</td>
<td>----------</td>
<td>-----</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>芸術</td>
<td>音楽Ⅰ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>音楽Ⅱ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>音楽Ⅲ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>美術Ⅰ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>美術Ⅱ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>美術Ⅲ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>工芸Ⅰ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>工芸Ⅱ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>工芸Ⅲ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>書道Ⅰ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>書道Ⅱ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>書道Ⅲ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>外国語</td>
<td>英語コミュニケーションⅠ</td>
<td>3</td>
<td>○ 2戦まで</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>英語コミュニケーションⅡ</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>英語コミュニケーションⅢ</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>論理・表現Ⅰ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>論理・表現Ⅱ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>論理・表現Ⅲ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>家庭基礎</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家庭総合</td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>情報</td>
<td>情報Ⅰ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>情報Ⅱ</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>理数</td>
<td>理数探究基礎</td>
<td>2</td>
<td>2〜5</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>理数探究</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>総合的な探究の時間</td>
<td>3〜6</td>
<td>○ 2戦まで</td>
<td>総合的な学習の時間</td>
</tr>
</tbody>
</table>
いじめの重大事態について

平成29年度における重大事態の発生件数は474件であり、いじめ防止対策推進法（以下「法」という。）が施行された25年度以降過去最多となった（前年度396件）。このうち、法第28条第1項第1号に規定するものは191件（前年度161件）、同項第2号に規定するものは332件（前年度281件）である。

文部科学省では、法第28条第1項のいじめの重大事態への対応について、学校の設置者及び学校における法、基本方針等に則った適切な調査の実施に資するため、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」を平成29年3月に策定している。

○いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>小学校</th>
<th>中学校</th>
<th>高等学校</th>
<th>特別支援学校</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>重大事態発生校数（校）</td>
<td>140（114）</td>
<td>203（169）</td>
<td>98（85）</td>
<td>3（4）</td>
<td>444（372）</td>
</tr>
<tr>
<td>重大事態発生件数（件）</td>
<td>145（119）</td>
<td>224（186）</td>
<td>102（88）</td>
<td>3（3）</td>
<td>474（396）</td>
</tr>
<tr>
<td>うち、第1号</td>
<td>46（42）</td>
<td>104（83）</td>
<td>40（35）</td>
<td>1（1）</td>
<td>191（161）</td>
</tr>
<tr>
<td>うち、第2号</td>
<td>116（92）</td>
<td>143（128）</td>
<td>71（59）</td>
<td>2（2）</td>
<td>332（281）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

出典：平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

※（　）内は平成28年度の件数。
※いじめ防止対策推進法第28条第1項第1号の規定は「いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」であり、同項第2号の規定は「いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」である。
※1件の重大事態が第1号及び第2号の両方に該当する場合は、それぞれの項目に計上されている。
児童虐待相談の対応件数推移及び虐待相談の内容・相談経路

○ 平成29年度における児童相談所の児童虐待相談対応件数は、133,778件。平成11年度に比べて約11.5倍。
○ 心理的虐待の割合が最も多く（54.0%）、次いで身体的虐待の割合が多い（24.8%）。
○ 相談経路は、警察等（49%）、近隣知人（13%）、家族（7%）、学校等（7%）からの通告が多くなっている。

○ 虐待相談の内容別割合

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>身体的虐待</th>
<th>ネグレクト</th>
<th>性的虐待</th>
<th>心理的虐待</th>
<th>総 数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平成29年度</td>
<td>33,223 (24.8%)</td>
<td>26,821 (20.0%)</td>
<td>1,537 (1.1%)</td>
<td>72,197 (54.0%)</td>
<td>133,778 (100.0%)</td>
</tr>
<tr>
<td>(+1,298)</td>
<td>(+979)</td>
<td>(~85)</td>
<td>(+9,011)</td>
<td>(+11,203)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

○ 虐待相談の相談経路

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>家族</th>
<th>親戚</th>
<th>近隣知人</th>
<th>児童本人</th>
<th>福祉事務所</th>
<th>福祉委員</th>
<th>保健所</th>
<th>医療機関</th>
<th>児童福祉施設</th>
<th>警察等</th>
<th>学校等</th>
<th>その他</th>
<th>総 数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>29年度</td>
<td>9,664 (7%)</td>
<td>2,171 (2%)</td>
<td>16,982 (13%)</td>
<td>1,118 (1%)</td>
<td>7,626 (6%)</td>
<td>218 (0%)</td>
<td>168 (0%)</td>
<td>3,199 (2%)</td>
<td>2,046 (2%)</td>
<td>66,055 (49%)</td>
<td>9,281 (7%)</td>
<td>15,250 (11%)</td>
<td>133,778 (100%)</td>
</tr>
<tr>
<td>(+126)</td>
<td>(+174)</td>
<td>(+446)</td>
<td>(+10)</td>
<td>(－47)</td>
<td>(－35)</td>
<td>(－35)</td>
<td>(－35)</td>
<td>(－90)</td>
<td>(－274)</td>
<td>(+11,243)</td>
<td>(+431)</td>
<td>(+600)</td>
<td>(+11,203)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

平成27年7月児童相談所全国共通ダイヤルを3桁化

平成25年12月警察がDV事案への積極的な介入及び体制を確立したことにより、警察から児童相談所への通告が増加した。

平成25年8月「子ども虐待対応の手引き」において、きょうだいへの虐待を当該児童に心理的虐待であると例示。
## 特別支援教育の現状

障害のある子供に対し、多様な学びの場において、少人数の学級編制、特別の教育課程等による適切な指導及び支援を実施。

### 特別支援学校

<table>
<thead>
<tr>
<th>特別支援学校</th>
<th>小・中学校等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>概要</td>
<td>障害の程度が比較的重い子供を对象として、専門性の高い教育を実施</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>障害の種別ごとの学級を編制し、子供一人一人に応じた教育を実施</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>大部分の授業を在籍する通常の学級で受けながら、一部の時間で障害に応じた特別な指導を実施</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 対象障害種と人数

<table>
<thead>
<tr>
<th>対象障害種</th>
<th>人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>視覚障害</td>
<td>約5,300人</td>
</tr>
<tr>
<td>聴覚障害</td>
<td>約3,000人</td>
</tr>
<tr>
<td>知的障害</td>
<td>約128,900人</td>
</tr>
<tr>
<td>腦性不自由</td>
<td>約1,800人</td>
</tr>
<tr>
<td>病弱・身体虚弱</td>
<td>約19,400人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>合計：約141,900人 (平成19年度の約1.3倍)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>重複障害の場合はダブルカウントしている</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 幼児児童生徒数

<table>
<thead>
<tr>
<th>幼児児童生徒数</th>
<th>人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>幼稚部</td>
<td>約1,400人</td>
</tr>
<tr>
<td>小学部</td>
<td>約41,100人</td>
</tr>
<tr>
<td>中学部</td>
<td>約30,700人</td>
</tr>
<tr>
<td>高等部</td>
<td>約68,700人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>全児童生徒の0.7%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 学級編制定数措置

<table>
<thead>
<tr>
<th>学級編制定数措置</th>
<th>人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>小・中</td>
<td>1学級6人</td>
</tr>
<tr>
<td>高</td>
<td>1学級8人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>全児童生徒の2.4%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 教育課程

<table>
<thead>
<tr>
<th>教育課程</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>各教科等に加え、「自立活動」の指導を実施。障害の状態等に応じた弾力的な教育課程が編成可。</td>
<td>基本的には、小学校・中学校の学習指導要領に沿って編成するが、実態に応じて、特別支援学校の学習指導要領を参考とした特別の教育課程を編成可。</td>
</tr>
<tr>
<td>それぞれの児童生徒について個別の教育支援計画（家庭、地域、医療、福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で教育的支援を行うための計画）と個別の指導計画（一人一人の教育的ニーズに応じた指導目標、内容、方法等をまとめた計画）を作成。</td>
<td>通常の学級の教育課程に加え、又はその一部に替えられた特別の教育課程を編成。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>幼児児童生徒数</th>
<th>人数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>幼稚部:約1,400人</td>
<td>小学校:約167,300人</td>
</tr>
<tr>
<td>小学部:約41,100人</td>
<td>中学校:約68,200人</td>
</tr>
<tr>
<td>中学部:約30,700人</td>
<td>高級学校は平成30年度から開始</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>全児童生徒の1.1%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>小・中</th>
<th>1学級8人</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>小学校:約97,000人</td>
<td>中学校:約12,000人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>全児童生徒の1.1%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 全児童生徒数

合計：約235,500人 (平成19年度の約2.1倍)
不登校の現状

小・中・高等学校における、不登校児童生徒数は、小学校35,032人（185人に1人）、中学校108,999人（31人に1人）、高等学校49,643人（66人に1人）となっており、合計で、193,674人（前年度182,248人）となっている。

平成29年度：193,674人（前年度182,248人）

- 小学校：35,032人（185人に1人）
- 中学校：108,999人（31人に1人）
- 高等学校：49,643人（66人に1人）

（注）不登校の定義は、年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的な理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」

（出典）文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（平成29年度）
公立学校における日本語指導が必要な児童生徒の現状

① 公立学校に在籍する外国人児童生徒の約4割が日本語指導を必要としており、増加傾向。
② 日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒も近年急増している。

【公立学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数】
出典：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査（平成28年度）」

<table>
<thead>
<tr>
<th>(人) 40,000</th>
<th>小学校</th>
<th>中学校</th>
<th>高等学校</th>
<th>特別支援学校</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平成18年度</td>
<td>22,413</td>
<td>25,411</td>
<td>28,575</td>
<td>1,128</td>
</tr>
<tr>
<td>平成19年度</td>
<td>22,726</td>
<td>25,619</td>
<td>28,774</td>
<td>1,182</td>
</tr>
<tr>
<td>平成20年度</td>
<td>22,924</td>
<td>25,781</td>
<td>28,961</td>
<td>1,236</td>
</tr>
<tr>
<td>平成21年度</td>
<td>23,126</td>
<td>25,923</td>
<td>29,153</td>
<td>1,292</td>
</tr>
<tr>
<td>平成22年度</td>
<td>23,328</td>
<td>26,055</td>
<td>29,346</td>
<td>1,348</td>
</tr>
<tr>
<td>平成23年度</td>
<td>23,530</td>
<td>26,188</td>
<td>29,539</td>
<td>1,404</td>
</tr>
<tr>
<td>平成24年度</td>
<td>23,732</td>
<td>26,320</td>
<td>29,732</td>
<td>1,460</td>
</tr>
<tr>
<td>平成25年度</td>
<td>23,934</td>
<td>26,452</td>
<td>29,925</td>
<td>1,516</td>
</tr>
<tr>
<td>平成26年度</td>
<td>24,136</td>
<td>26,584</td>
<td>30,118</td>
<td>1,572</td>
</tr>
<tr>
<td>平成27年度</td>
<td>24,338</td>
<td>26,716</td>
<td>30,311</td>
<td>1,628</td>
</tr>
<tr>
<td>平成28年度</td>
<td>24,540</td>
<td>26,848</td>
<td>30,504</td>
<td>1,684</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【公立学校に在籍する日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数】

<table>
<thead>
<tr>
<th>(人) 10,000</th>
<th>小学校</th>
<th>中学校</th>
<th>高等学校</th>
<th>特別支援学校</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平成18年度</td>
<td>3,868</td>
<td>4,383</td>
<td>4,895</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>平成19年度</td>
<td>3,975</td>
<td>4,516</td>
<td>4,997</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成20年度</td>
<td>4,082</td>
<td>4,628</td>
<td>5,123</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成21年度</td>
<td>4,189</td>
<td>4,740</td>
<td>5,249</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成22年度</td>
<td>4,296</td>
<td>4,852</td>
<td>5,365</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成23年度</td>
<td>4,403</td>
<td>4,954</td>
<td>5,481</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成24年度</td>
<td>4,510</td>
<td>5,056</td>
<td>5,597</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成25年度</td>
<td>4,617</td>
<td>5,158</td>
<td>5,713</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成26年度</td>
<td>4,724</td>
<td>5,260</td>
<td>5,829</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>平成27年度</td>
<td>4,831</td>
<td>5,362</td>
<td>5,945</td>
<td>17</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※特別支援学校については、H18年度までは盲・聾・養護学校、H20年度以降は特別支援学校に対して調査を行っている。
※( )内の数字は外国人児童生徒数に対する日本語指導が必要な外国人児童生徒数の割合。
帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導の現状

① 日本語指導が必要な児童生徒は多様化している

外国籍児童生徒の母語

- ポルトガル語: 518人
- スペイン語: 403人
- 中国語: 1,988人
- フィリピン語: 5,490人
- 英語: 988人
- 韓国・朝鮮語: 175人
- ベトナム語: 122人
- その他: 879人

② 日本語指導が必要な児童生徒は集住化・散在化の傾向がみられる

公立小・中学校に日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校数

- 在籍なし: 23,401校 (77.3%)
- 在籍あり: 6,864校 (22.7%)

公立小・中・高等学校等に日本語指導が必要な児童生徒が在籍する市町村数

- 在籍なし: 808市区町村 (46.4%)
- 在籍あり: 933市区町村 (53.6%)

「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」の結果より